

オホーツク水産生物学特論（二）（2単位）

担当者氏名 渡邊 研一

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

世界人口は60億を超え、今後、地球規模で食料不足が起こる可能性は高い。したがって、効率的な食料生産技術の開発が望まれている。水産養殖学は水産資源生物の繁殖や育成及びその環境を積極的に管理して、最終生産物まで育成する技術に関わる学問で、水産増殖学とは相互に関連した学問領域である。本特論では、水産資源動物の生殖特性などの生命現象や育成環境について理解を深め、育種や種苗生産に関わる水産増殖学について学修する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

増養殖 魚介類 繁殖 種苗生産
 病気対策

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
	ガイダンス（第1週） 生育環境（第2～3週） 生理特性（第4～5週） 生活史（第6～7週） 繁殖（第8～9週） 種苗生産（第10～11週） 養殖技術（第12～13週） 病気対策（第14～15週）	<ul style="list-style-type: none"> • 本特論の受講に関するガイダンス • 主要魚介類の生育環境について • 生理特性について • 生活史について • 繁殖について • 種苗生産について • 養殖技術について • 病気対策について 	◎本授業では、水産増養殖に関わる基礎知見とそれを利用した応用技術について、教員のみならず、学生相互においても意見交換しながら授業を進める。したがって、前回の授業で指示された事項についての予習および復習を十分行うこと。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

別途指示する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

別途指示する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業における意見交換内容とレポートを100%として評価する。

◆オフィスアワー

いつでも良いが、事前にメールで希望日時を連絡すること。

◆その他受講上の注意事項

学んだことをきっかけとして、自ら課題を解決するための努力が必要である。